

子ども読書支援センターニュース No. 190

2020. 3. 31.

山口県子ども読書支援センター（山口県立山口図書館）発行
TEL083-924-2111 FAX083-932-2817 <http://library.pref.yamaguchi.lg.jp>

★メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

【山口県子ども読書支援センター行事】

★幼児のためのおはなし会

4月7日（火）の開催につきましては、新型コロナウイルス感染拡大予防のため、中止させていただきます。

◎申込み、連絡先：山口県子ども読書支援センター（電話：083-924-2111 FAX：083-932-2817 Eメール：a50401@pref.yamaguchi.lg.jp）

【新刊紹介】 価格は消費税抜き

<絵本-3, 4歳から>

『100』 名久井直子/さく 井上佐由紀/しゃしん 福音館書店 2020.2 ¥900

「100」っていったいどのくらい？まだ小さい数しか数えられない子どもたちにとって「100」はどんな数？「100」はたくさん。積み木も100個あればたくさんのお家やお城ができるよ。金魚も1匹より100匹のほうがおともだちが多くていいね。輪ゴムに金太郎飴にスーパーボール、貝殻にどんぐりなど、子どもたちの身のまわりにあるものを100ずつ集めた写真絵本。

<絵本-5, 6歳から>

『やさいのおにたいじ』 つるたようこ/さく 福音館書店 2020.2 ¥900

ここは京の都。このところコンニャクイモの鬼が娘たちをさらっていた。お屋敷に住むひのなひめも連れ去られてしまう。そこで知恵と勇気のある、たけのこ、まつたけ、加茂なす、みずな、金時こんじん、堀川ごぼうの六人が集められ鬼退治へ。御伽草子『酒吞童子』の登場人物が京野菜に。それぞれの野菜の特徴と姿を活かした楽しい展開、表情もほっこりと可愛らしい昔話絵本。

<絵本-小学校低学年から>

『わたしのやま』 フランソワ・オビノ/作 ジェローム・ペラ/絵 谷川俊太郎訳 世界文化社 2020.2 ¥1400

両サイドから読める絵本。「ここが わたしのやま」「わたしは ここにすみ ここで おむしり ここで たべる」。全く同じ文章で、一方では羊飼いの生活を、一方ではオオカミの生活を描く。「わたしのやまを ほかにものと わかちあうのは むずかしいがここが すきになったら だれでも すめるだけの ひろさは ある」色々な立場で考えることの大切さを改めて教えてくれる絵本。

『空飛ぶ船とゆかいななかま』 バレリー・ゴルパチョフ/再話・絵 こだまともこ/訳 光村教育図書 2020.1 ¥1400

昔、ある国の王が、空飛ぶ船でお城まで来た者を王女と結婚させる、というおふれを出す。ある村に「世界一のまぬけ」と呼ばれる若者がおり、空飛ぶ船を探し旅に出た。最初に出会った老人から空飛ぶ船を手に入れた若者は、色々な能力を持つ人たちを旅の仲間に加えながらお城に向かう。ようやくお城についた一行に、王はできそうもない命令を次々と出し…。愉快なウクライナの昔話。

『さくらがさくと』 とうごうなりさ/さく 福音館書店 2020.2 ¥1400

3月半ば、川沿いの桜の並木道を駆へと急ぐ人々のいつもの風景。やがて桜の蕾がふくらみほころんでくると、鳥たちが集まり、人々は桜を見上げ、桜まつりの準備が始まる。花びらが散った数日後、桜の木はもう次の準備を始めている。そして桜若葉の道には駆へ急ぐ人々の姿が。表紙は満開の薄桃色、裏表紙は葉っぱの若草色。約一か月の桜の時期の光景を切り取った、春に相応しい美しい絵本。

<絵本-小学校中学年から>

『青いヌブキナの沼』 かこさとし/著 復刊ドットコム 2020.2 ¥2300

雪の中、病気の妹チリのため兄タキシは狩りに出かけ、大きなオジカをしとめて帰る途中、悲劇がおこる。兄の帰りを待ち続けるチリ。やっと春になり外へ出たチリは、変わり果てた兄を見つけてすべてを悟り…。ヌブキナはアイヌ語で「すずらん」の意味。アイヌの歴史を子どもたちに知ってほしいと願う作者による、アイヌの兄妹の悲しい物語。1980年に偕成社から刊行された本の復刊。

<読み物-小学校低学年から>

『デイビッド・マックチーパーと29ひきの犬』 マーガレット・ホルト/ぶん ウォルター・ロレイン/え 小宮由/やく 大日本図書 2020.1 ¥1400

新しい町に引越してきたデイビッド。頼まれたスーパーへのお使いの帰り道、破れた買い物袋から落ちてしまったお肉を拾いに戻ると、肉に犬たちが群がっていた。初めは4ひきだったのに、次のソーセージ、その次のハンバーグのところに行くと、なんと犬は29ひきに。デイビッドは、まるでパレードの様に、その犬と飼い主を引き連れ家まで帰ることに。「こころのほんばこ」シリーズ。

<読み物-小学校中学年から>

『精霊のなみだ』 湯湯/作 高野素子/訳 平澤朋子/絵 あかね書房 2020.2 ¥1200

トゥートゥルのたこがひっかかったのは、10年以上も前に村にやってきたのに誰も顔を見たことのない、藍色のマントを着ている藍ばあさんの小屋。トゥートゥルは一人でそこへ行き藍ばあさんと言葉を交わすようになる。そこで話してくれるのはいつも水の精霊の話。トゥートゥルはいつしかそのお話にも藍ばあさんにも夢中になっていった。「トゥートゥルとふしぎな友だち」シリーズ。

<読み物-小学校高学年から>

『県知事は小学生?』 濱野京子/作 橋ましろ/絵 PHP研究所 2020.2 ¥1200

米軍のヘリコプター墜落事故に巻き込まれた、大井県知事とぼく。意識を失ったぼくは、目覚めると妙な違和感を感じる。なんとぼくの体の中に知事の魂が入り込んでしまったのだ。寝て起きる度に二人の主体が入れ替わる奇妙な二人三脚生活。ぼくの学校生活、知事の県政はといったいどうなるの？原発誘致や住民投票、格差社会等が織り込まれ、物事の本質を考える大切さを訴えるお話。

『アリの猫がきいている』 新藤悦子/作 佐竹美保/絵 ポプラ社 2020.2 ¥1500

猫のシャイフは、飼い主のアリの海外出張のために、民芸品店を営む友人に預けられることに。シャイフは、猫語以外に3つの言語を理解できる「長老族」であった。民芸品店では、世界の国々からやってきた民芸品たちが夜な夜なおしゃべりを始める。シャイフは彼らの波乱にたんだ身の上話を聞くうち、みんなの願いを叶えたいと思うように、人と物との不思議な縁を結んでいくお話。

<読み物—中学生から>

『朔(さく)と新(あき)』 いとうみく/著 講談社 2020.2 ¥1500

高速バスの事故で視力を失い、盲学校の寮に入っていた兄・朔が、1年ぶりに帰ってきた。バスに乗る原因を作った責任を感じ、高校に入って大好きな陸上をやめていた弟・新(あき)に、朔はブラインドマラソンの伴奏者を依頼する。傷を抱えた二人は1本のロープを握るが…。見えないとはいどういうことか、本人や家族・恋人の戸惑いは…。反抗期真っ只中にある弟の視点からリアルに描く。

『窓』 小手鞠るい/作 小学館 2020.2 ¥1400

祖母、父と三人暮らしの窓香(中2)の元に米国から届いた1冊のノート。8歳の時、米国で別れた母のノートには、娘への溢れる愛情と、一人の女性としての生き方が綴られていた。ジャーナリストとしてウガンダなどを訪れた様子を娘宛に書き付けたそのノートを、グループ研究に生かし、学園祭で見事なスピーチをした窓香。今は亡き母を理解する中で成長していく少女の姿を描く。

『ぼくの帰る場所』 S.E. デュラント/作 杉田七重/訳 鈴木出版 2019.10 ¥1600

ぼくの両親は学習障害があって、お金や書類の処理ができない。助けてくれていたおじいちゃんが突然亡くなり、中学生になったぼくはちゃんとした家庭らしく見せるよう努力するが、ランニングシューズが小さくなりすぎて大好きな陸上も思うようにできず…。肩肘張って生きていく思春期の少年の、家族に対する愛情や学校生活での葛藤が細やかに描かれる。著者はイギリスの児童文学作家。

<ノンフィクション—小学校低学年から>

『みの回りにあるものをつかう楽しいおもちゃの作り方』 宮本えつよし/著 金の星社 2020.2 ¥2000

空き箱や紙袋、紙コップやペットボトル、牛乳パックやポリぶくろなど、身の回りの廃品を使った簡単に作れる工作を紹介。作ったあとも楽しく遊べる工作おもちゃばかり。作り方や遊び方に加えて、工作のアレンジの仕方も紹介し、自分だけの楽しい作品が作れるヒントも。『どうぶつのおもちゃ』『あそべるおもちゃ』の全2巻。小学校低学年の図画工作科や生活科で活用できる。

<ノンフィクション—小学校中学年から>

『カイルのピアノ』 高山リョウ/著 富永泰弘/写真 岩崎書店 2019.11 ¥1300

2歳で自閉症と診断された紀平凱成(かいる)。幼少より聞いた音をピアノで再現する力を備え、7歳でピアニストになる夢をもつ。その後、聴覚過敏や視覚過敏に苦しむが練習に励み、18歳にして本格的音楽ホールでのソロリサイタルを実現する。本人と家族、幼稚園や学校、ピアノの先生などへの半年の取材により、音楽の才能がどのように育まれたのかを描いた1冊。

『琉球という国があった』 上里隆史/文 富山義則/写真 一ノ関圭/絵 福音館書店 2020.2 ¥1300

日本、中国、東南アジアなど、様々な国に船を出して盛んに貿易を行なった琉球王国。今も独特の文化が残る沖縄の歴史を、美しい写真やイラストとともに辿る。2019年10月の首里城の火災後、読者から強い復刊の声が寄せられ、ハードカバー版の本書が発刊。たくさんのふしぎ傑作集。売り上げの一部は、一般財団法人沖縄美ら島財団「首里城基金」に寄付される。

『ぎゃくたいってなあに?』 青木智恵子/著 溝口史剛/監修 金剛出版 2020.1 ¥1800

「心と体は自分のもの。助けてと言っていないだよ」「大人は子どもの体や心を傷つけてはいけないのです」身体的虐待・心理的虐待・ネグレクト・性的虐待の事例を具体的に紹介し、その対処法や助けを求める方法などを、子どもにわかるようやさしく解説する。字体は、読字障がいの方にも読みやすいUDフォントを採用。巻末にさらに詳しい情報が得られるサイトのQRコード付き。

<ノンフィクション—小学校高学年から>

『世界がぐっと近くなるSDGsとボくらをつなぐ本』 池上彰/監修 学研プラス 2020.2 ¥4800

国連が2015年に出した「持続可能な開発目標」通称「SDGs」。持続可能とは、次の子どもや孫の世代にも、豊かな自然がありきれいな水が飲めみんなが健康に過ごせるような状態が残ること。17の目標からキーワードを取り上げ、わかりやすく解説。巻頭には2019年10月に、本書作成にあたり「SDGs」について何も知らない子どもに対して開かれた特別講義の抜粋あり。

<ノンフィクション—中学生から>

『はじめて読む源氏物語』 藤原克己/監修 花鳥社 2020.1 ¥1800

『源氏物語』研究者たちが、今読んでも抜群に面白いこの物語の魅力を伝える。単なるあらすじの紹介ではなく、とりわけ重要な部分を厳選し、原文や江戸初期出版の『絵入源氏物語』の挿絵などを添えて、わかりやすい鑑賞と解説をする。初心者からもっと深く知りたい人まで、幅広い読者が、光源氏の栄光と挫折の軌跡を理解し、物語全体を楽しむことができるように工夫されている。

『鉄人講師が明かす三羽邦美の漢文ルール』 三羽邦美/著 PHP 研究所 2020.2 ¥1200

漢文の初心者向けに、塾講師が、見開きページに1項目ずつ基礎知識を丁寧に解説する。漢字の成り立ちから、日本での漢文の受容と返り点の誕生までの歴史。有名な1文を例に挙げ、返り点の技術、漢文の五文型、読まない字や再読文字、29の句法といった漢文の基礎を徹底的にわかりやすくレクチャーする。中学生や高校生の漢文学習に役立つ一冊。「心の友だち」シリーズ。

『地獄の楽しみ方』 京極夏彦/著 講談社 2019.11 ¥1200

ミステリー作家・京極夏彦が、15歳から19歳の若者に行った特別授業を元に再構成。言葉はデジタルだから不完全。SNSが炎上するのも当然。言葉は通じないということを理解した上で、言葉を使って人生を豊かにし、地獄のような現実世界を楽しく生きていこうと呼びかける。「正義」「愛」といった具体的な言葉を取り上げ、楽しくレクチャーする。「17歳の特別教室」シリーズ。

<研究書>

『おはなし聞いて語って 東京子ども図書館月例お話の会 500回記念プログラム集』 東京子ども図書館/編集 東京子ども図書館 2019.12 ¥1364

「お話」がどんなものかを知ってもらい、語り手たちを増やしたいと東京子ども図書館が行っている、大人対象の「月例お話の会」。その1972年1月の第1回から2019年12月の第500回までのプログラムを語り手と共に収録。カラー口絵では、趣向を凝らした配布用のプログラムを紹介する。「お話」の索引や、出典リスト付き。ストーリーテリングの種を探すのに役立つ一冊。

※【新刊紹介】の本は、県立図書館で現在受入準備中の本です。そのため、県立図書館の蔵書検索(OPAC)では検索できませんが、利用することは可能です。閲覧、貸出等を希望される方は、お問い合わせください。